

平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 筑波大学附属坂戸高等学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等教育学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()

住所 〒 350-0214
埼玉県坂戸市千代田1-24-1

E-mail : gakumu@sakado-s.tsukuba.ac.jp

Website : http://www.sakado-s.tsukuba.ac.jp

児童生徒数：男子 216名 女子 270名 合計 486名
 児童・生徒の年齢 15歳～18歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか (福祉)

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

※当報告書についてはユネスコスクールホームページに掲載するため、活動内容については、添付資料ではなく本報告書にご記入願います。

本校は以前から資源エネルギー庁が行っている「エネルギー教育実践校」（平成 14～16 年）の指定を受け、環境問題・資源エネルギー問題を高等学校教育に取り入れる実践に継続して取り組んだり、平成 19～20 年度に行った「サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト(SPP)」で大学・研究機関・NPO 法人・企業と連携した SPP 講座を実施したりと、持続発展教育のための活動を行ってきた。また、文部科学省平成 20 年度「国際協力イニシアティブ」教育協力拠点形成事業において、筑波大学農林技術センターと共同で「総合学科の知見を生かした農学 ESD の実践と深化」をテーマに共同研究を実施し、翌年度には筑波大学農林技術センターの研究プロジェクト「アジア共生社会を創成するための国際連携教育プログラム」に参加し、姉妹校であるボゴール農科大学附属コルニタ高校において、農林技術センターと附属坂戸高等学校で実践を重ねてきたエネルギー環境教育関連の英語教材の提供と検証を実施した。さらには、筑波大学の附属学校の拠点構想のうちの一つである「国際教育拠点構想」の実現に向け、平成 20 年度に国際教育推進委員会を設置し、本校独自の取り組みである「国際的視野に立った卒業研究の支援プログラム」をはじめ、海外校外学習（修学旅行）の実施、姉妹校や海外校との交流、トヨタ財団「アジア隣人プログラム」への参加、ユネスコスクールへの加盟、高校生 ESD 国際シンポジウムなどを通して、総合学科高校だからこそ可能である ESD・国際教育のあり方を模索している。また、本校の ESD・国際教育の核を担うべく平成 23 年度入学生の教育課程より学校設定教科「国際科」を設置し、以下の 4 科目を設けている。24 年度には 2 年次選択科目の「国際社会」、「Discussion & Debate」がスタートし、25 年度には 3 年次選択科目の「比較文化論」「Global Studies」も合わせ 4 科目すべての実践が始まった。基本的には、系列に縛られずに自由に選択できる科目として設定している。

平成 25 年度筑波大学附属坂戸高等学校 国際教育・ESD 活動一覧（抜粋）

4月	「世界一大きな授業」Global Studies で実施
5月	東アジアグリーンスクールネットワークに関する会議 教員発表 (インドネシア政府、ユネスコジャカルタ、KOICA (韓国国際開発機構) 主催)
6月	ALT を活用したイングリッシュルーム(昼休み・放課後等)の開始
6月	国際ソロプチミスト埼玉 第7回ユース・フォーラム 生徒出場
7月	スイスからの留学生(1年間)・ドイツからの留学生(3か月間)帰国
7月	3年生1名アメリカ留学(1年間)から帰国
8月	国際ソロプチミストアメリカ 第8回日本東リジョン・ユース・フォーラム 生徒出場
9月	ドイツからの留学生来校(2014年7月まで)
9月	2年次総合「インドネシア班」インドネシア・ショップ黎明祭出店
9月	Uniqlo「服のチカラ・プロジェクト」54箱2000着以上の服を校内で回収・発送
10月	「高校生ESD国際シンポジウム@坂戸2013」開催
10月	姉妹校コルニタ高校から3名の留学生が来校(4週間)
11月	「国際ユース作文コンテスト(五井平和財団・ユネスコ共催)」入賞
11月	生徒有志がフィリピン台風被害に対する募金活動を実施
12月	「第5回ユネスコスクール全国大会」教員参加
12月	2年次海外校外学習 初の分散実施(オーストラリア、台湾、インドネシア)
12月	ACCU 「ESD Rice Project ワークショップ in アユタヤ」教員参加
1月	「国際的な視野に立った卒業研究支援プログラム」生徒・教員がアメリカ渡航
1月	日本教育新聞に本校のESDの取り組み記事が掲載
1月	ロンボク・マタラム第一高校(インドネシア)短期留学生来校(1週間)
1月	JICA 主催「JICA 高校生エッセイコンテスト」入賞
1月	世界銀行主催「第4回中高生開発援助標語コンテスト」入賞
2月	「国際的な視野に立った卒業研究支援P」生徒・教員がタイ&シンガポール渡航
2月	第17回総合学科研究大会 生徒・教員発表
3月	H26年度海外校外学習交流校視察・打ち合わせ(台湾・インドネシア)教員派遣
3月	British Hills にて English Camp 実施(1・2年次生希望者)

★「国際的視野に立った卒業研究の支援プログラム」

平成 20 年度より行っている「国際的視野に立った卒業研究の支援プログラム」（以下「卒業研究支援プログラム」）では、3 年次の学校指定必修科目「卒業研究」での取り組みのうち、国際的研究を行う、もしくは行うことを考えている生徒に対し渡航費の援助を行っている。このプログラムによって平成 20～24 年度に計 8 名の生徒を海外に送り出してきた。それぞれの生徒の研究テーマと活動内容は以下の通りである。今年度は 2 年次生 3 名がアメリカ・タイ・シンガポールに渡航し、それぞれ調査活動を行った。

★「高校生国際 ESD シンポジウム@坂戸 2013」の開催

昨年度の第 1 回に引き続き、今年度もアジア 3 カ国 5 校の生徒・教員を招待し、本校において「高校生国際 ESD シンポジウム@坂戸 2013」を開催した。筑波大学農林技術センターが主催している国際農学 ESD シンポジウム（Ag-ESD）において毎年本校の ESD に関する報告・ポスター発表・プレゼンテーションを行っていたが、今年度は開催時期の都合が合わず、本校単独での開催となった。本校を含む参加 6 校の生徒たちは「持続発展可能な社会づくりのために高校生ができること」をテーマに本校でプレゼンテーションを行い、それぞれの国や地域が抱える問題とそれらに対する考えを共有しあった。

★海外校外学習（修学旅行）の分散実施

本校では平成 10 年度より国際教育の一環として海外への修学旅行（2 年次生対象）を実施してきた。行先は韓国（10～14 年度）、オーストラリア（16～18、22～24 年度）、台湾（19～21 年度）で、総合的な学習の時間と連動させて異文化理解・日本文化紹介・言語学習などの事前学習を経て現地へ赴くことから「海外校外学習」と呼ぶことにしている。25 年度実施の校外学習から従来の 160 名全員が 1 か所に行くという形から、オーストラリア・インドネシア・台湾の 3 ヶ所に分かれて実施する形に変更した。これはグループの規模を小さくして生徒一人一人の活動への関わりを深めながら海外の交流校との協働学習活動やホームステイを実現することが狙いであり、25 年度はインドネシアは姉妹校のボゴール農科大学附属コルニタ高校へ 10 名、台湾は新民高級中学（台中市）へ 54 名が渡航した。

★ユネスコスクールとしての活動

ユネスコスクールとは、「そのグローバルなネットワークを活用し、世界中の学校と交流し、生徒間・教師間で情報や体験を分かち合い、地球規模の諸問題に若者が対処できるような新しい教育内容や手法の開発、発展を目指して」（ユネスコスクール公式ウェブサイトより）いる世界的学校間ネットワークで、本校は平成 23 年 1 月に正式に加盟が認められた。現在は本校教員が全国大会や研修会に参加して情報収集をしたり、ユネスコスクール加盟校の生徒対象のプログラムへチャレンジしたりしている。

本校の ESD の特色は、多種多様な科目を有する総合学科の強みを生かして、生徒一人ひとりが学際的・総合的な学びを展開し、その集大成として卒業研究に取り組むことである。ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）主催の ESD Rice Project への参加も決まり、タイ・アユタヤで開催されたワークショップに本校教員が日本代表で参加した。本実施となる 26 年度から、お米を素材とした教科間のつながり、国内外の学校とのつながり、そして地域とのつながりによる ESD 実践を加速させる予定である。こうした活動を含めて、今後も国内外計約 9,000 の学校を有するネットワークを生かし、海外校を含め他校と協力しながら様々な切り口で ESD に取り組んでいき、2014 年 11 月のユネスコスクール世界大会に向けて成果を上げたい。

（2）活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施

□ その他（ ）

以下、授業における ESD 実践の一部を抜粋して紹介する

- ・ 学校菜園づくり（1 年次生：「産業社会と人間」）
- ・ 日本財団学校プロジェクトとのコラボレーション授業で社会貢献活動を実施（2 年次生：「総合的な学習の時間」）
- ・ 筑波大学附属の特別支援学校および地元の福祉施設との交流・ボランティア活動（1 年次生：「産業社会と人間」 および 2・3 年次生：福祉科各科目）
- ・ 大豆栽培から味噌製造・販売までを実践した地産地消の推進（3 年次生：「食と農の科学」）
- ・ 機械・電子・情報等を融合した多角的な視点を育む授業（3 年次生：「工学情報実習」）
- ・ 日本と外国の食文化比較（3 年次生：「フード・デザインⅡ」）
- ・ アイマスク着用により視覚障がい者の視点に立った福祉調理実習（3 年次生：「フード・デザインⅡ」）
- ・ 農業科・工業科・家庭科・福祉科による合科的授業（3 年次生：「社会福祉援助技術」）
- ・ 国際的な諸問題に関するディスカッション・ディベートを実施（2 年次生：「国際社会」）
- ・ 「ユニクロ・服のチカラプロジェクト」で校内外から 2000 着以上の衣服を回収し、UNHCR を通じてヨルダンの難民キャンプへ（3 年次生「Global Studies」）
- ・ Stand Up Take Action!実施（3 年次生：「Global Studies」）
- ・ 坂戸市洪水ハザードマップの作成（3 年次生：「地理 B」）
- ・ 博物館・大学・高校と連携した総合的な野外実習（1～3 年次生：「総合地球科学入門」）